こども
子供のインターネットバイブル

あんない
案内いたします

ひつじかいの

しょうねん
少年、ダビデ

ぶん
文: Edward Hughes
え
絵: Lazarus
かいさくしゃ
改作者: Ruth Klassen
Alastair Paterson
ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki
監修者: Dan Ellrick
しゅっぱんしゃ
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

BFC
PO Box 3
Winnipeg, MB R3C 2G1
Canada

©2021 Bible for Children, Inc.
きょか　たにんうかぎはなしまたきょか
許可：　他人に売らない限り　このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。

ずっとむかし、まだサウルがイスラエルの王さまだったときのお話です。ダビデという名の男の子がいました。ダビデは、７人のお兄さんを手伝ってお父さんのヒツジやウシの世話をしていました。かれは、いちばん末っ子ですけれど、とてもつよく、勇気のある少年でした。それに、いつも神さまを愛しこころから信じていました。

その子は、

いちど、こんなことがありました。ライオンがヒツジのむれをおそって、小さな子ヒツジをつかまえてしまいました。ライオンは、きっとヒツジを自分の晩ごはんにするつもりだったのでしょう。そのときダビデは、子どもっだったのですが、ライオンにおそいかかりました。そして、ライオンの口からそのヒツジをうばいかえしたのです。次に、うなっているライオンのヒゲをつかんで殺してしまいました。そのときダビデは、思いました。きっと神さまがいっしょにいて、自分を助けてくださったのだって。

そのころ、神さまのよげん者サムエルは、まだサウルのことで、悲しくてたまりません。なぜなら、サウルは、すっかり神さまからはなれてしまったのですから。「いったい、いつまでサウルのことでなげくつもりなのか。」

神さまは、こう言ってサムエルをしかりました。「サムエル、わたしはあなたをエッサイのところにつかわそう・・・。それは、わたしがエッサイのむすこの１人を次の王としてかんがえているからだ。」

じつはね、エッサイという人は、ダビデのお父さんでした。サムエルは、神さまの言われることにしたがい、もうひとりの王さまをさがしに行くことにしました。

でも、もしサウル王がそのことを知ったら、たいへんなことですね。サムエルをころすかもしれません。けれども、

よげん者サムエルは、
さまにしたがいました。

サムエルがエッサイのいる町についたとき、エッサイは自分の７人のむすこたちにサムエルの前を歩かせました。ところが、サムエルはかれらを見て言いました。

「エッサイ、主がえらばれたのは、このむすこたちじゃありません。」このとき、ダビデだけここにいませんでした。ダビデは、ちょうどヒツジのせわをしていたからです。そこで兄さんたちは、ダビデをへやの中につれてきましたよ。すると、主がすぐにサムエルにこたえられました。「立ちなさい。そしてかれに油をそそぎなさい。まさに、この人こそ主がえらばれたものである。」

さて、そのころサウルのおしろは、いったいどうなっていたでしょう。じつは、主の霊がサウルからすっかりはなれてしまい、かれの心には安らぎやよろこびがありません。サウルのめし使いたちは、こう思いました。

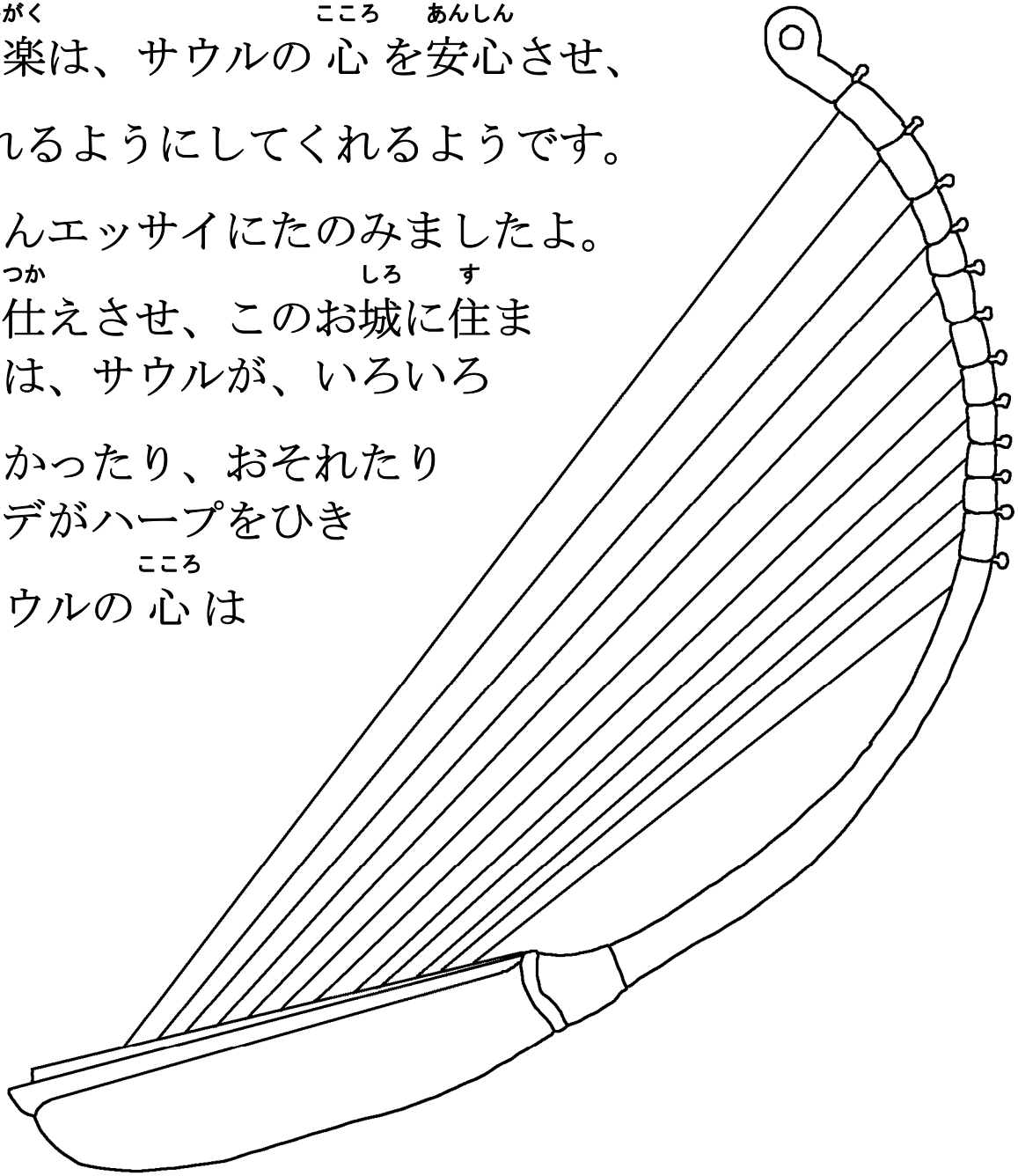
もし、サウルがうつくしい音楽を聞いたなら、かれの心はおちつき、やさしくなるかもしれないと。めし使いの１人が、ハープをとてもじょうずにひくわかい男の人を知っていました。みなさん、その人はだれかわかりますか。

そうなのです。その人はダビデですよ。

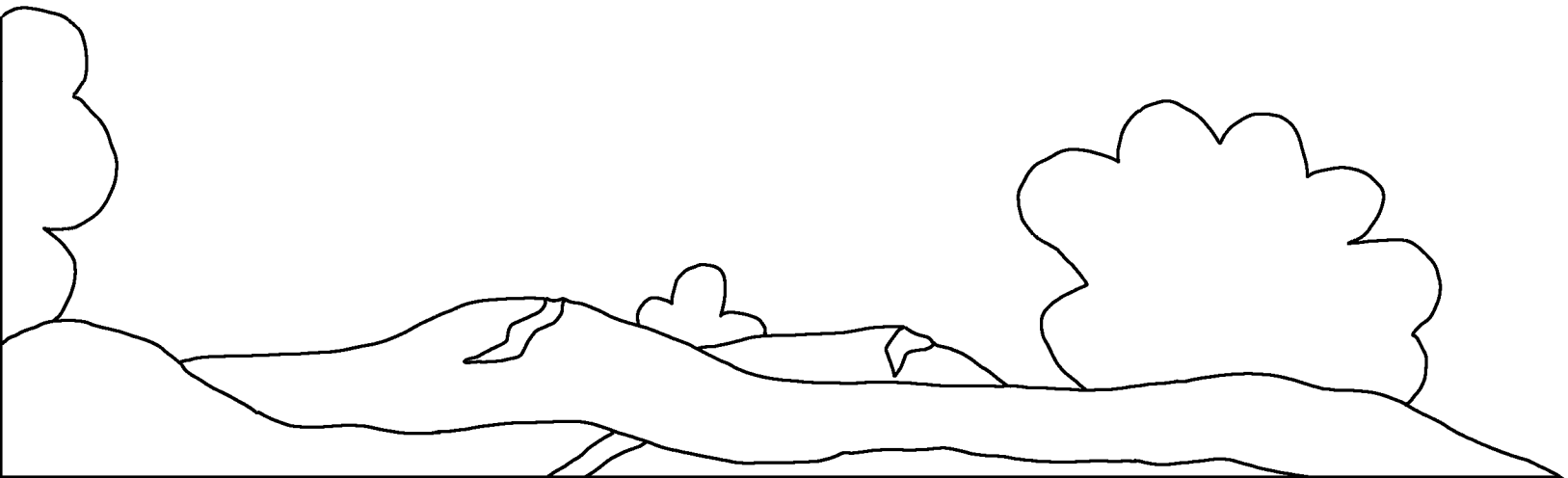
ダビデのそのうつくしい音楽(おんがく)は、サウルの心(こころ)を安心(あんしん)させ、ものごとを正(ただ)しく考(かんが)えられるようにしてくれるようです。

サウルは、ダビデのお父(とう)さんエッサイにたのみましたよ。

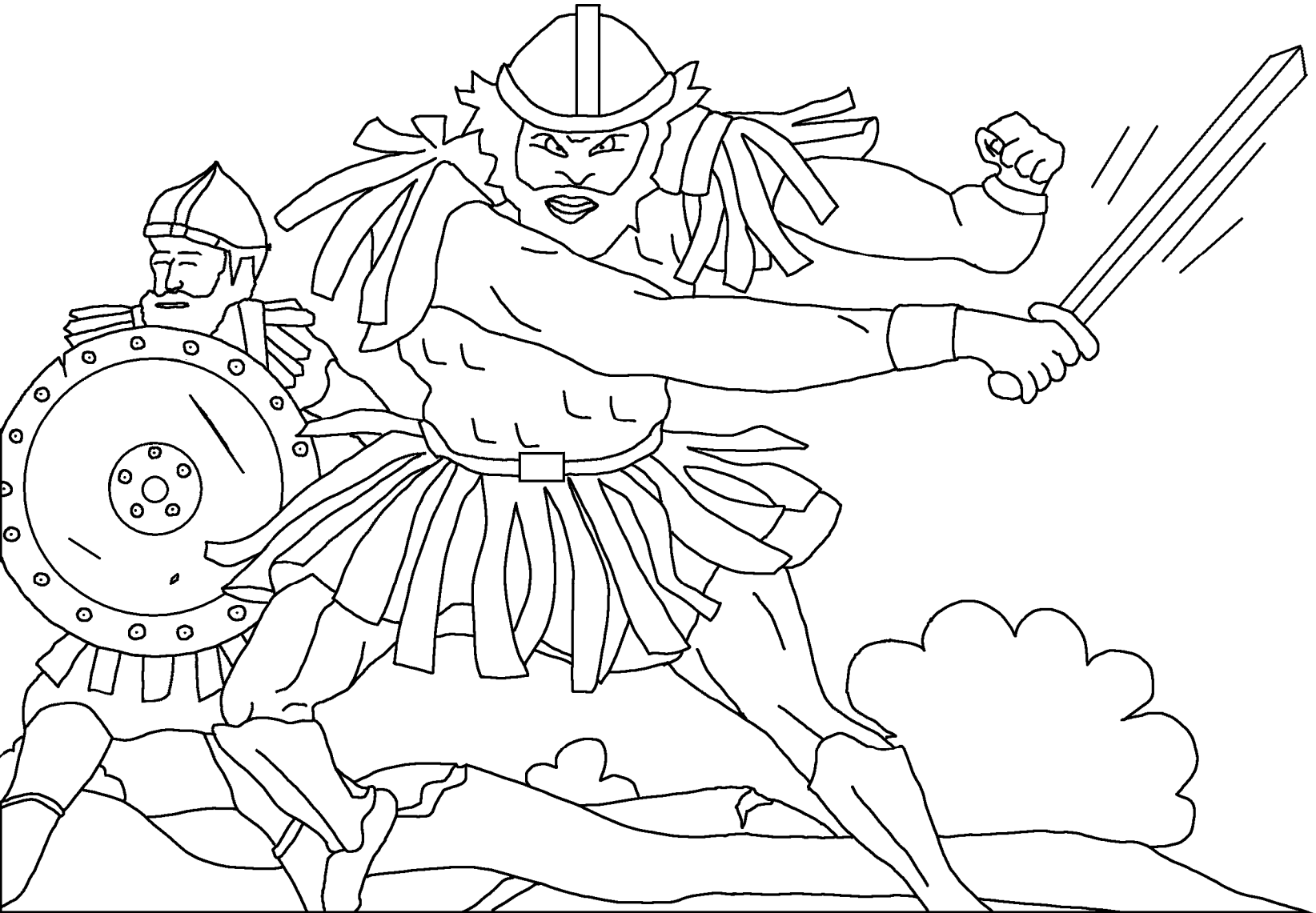
「ぜひ、ダビデをわたしに仕(つか)えさせ、このお城(しろ)に住(す)まわせてくれ。」　それからは、サウルが、いろいろなことを心配(しんぱい)して元気(げんき)がなかったり、おそれたりするときは、いつでもダビデがハープをひき(き)ました。それを聞くと、サウルの心(こころ)はおちつくのでした。



ダビデがお父さんのうちへ　かえってからのことです。サウルとペリシテ人とのあいだに大きなたたかいがはじまりました。ダビデの兄さんたちは、サウルの軍たいに入り、ペリシテ人とたたかいましたよ。エッサイは先とうに立ってたたかっているむすこたちが心配です。「ダビデ、兄さんたちに食べものをもっていって、どうしているか見てきておくれ。」エッサイは、こう言ってダビデを兄さんのところに行かせました。

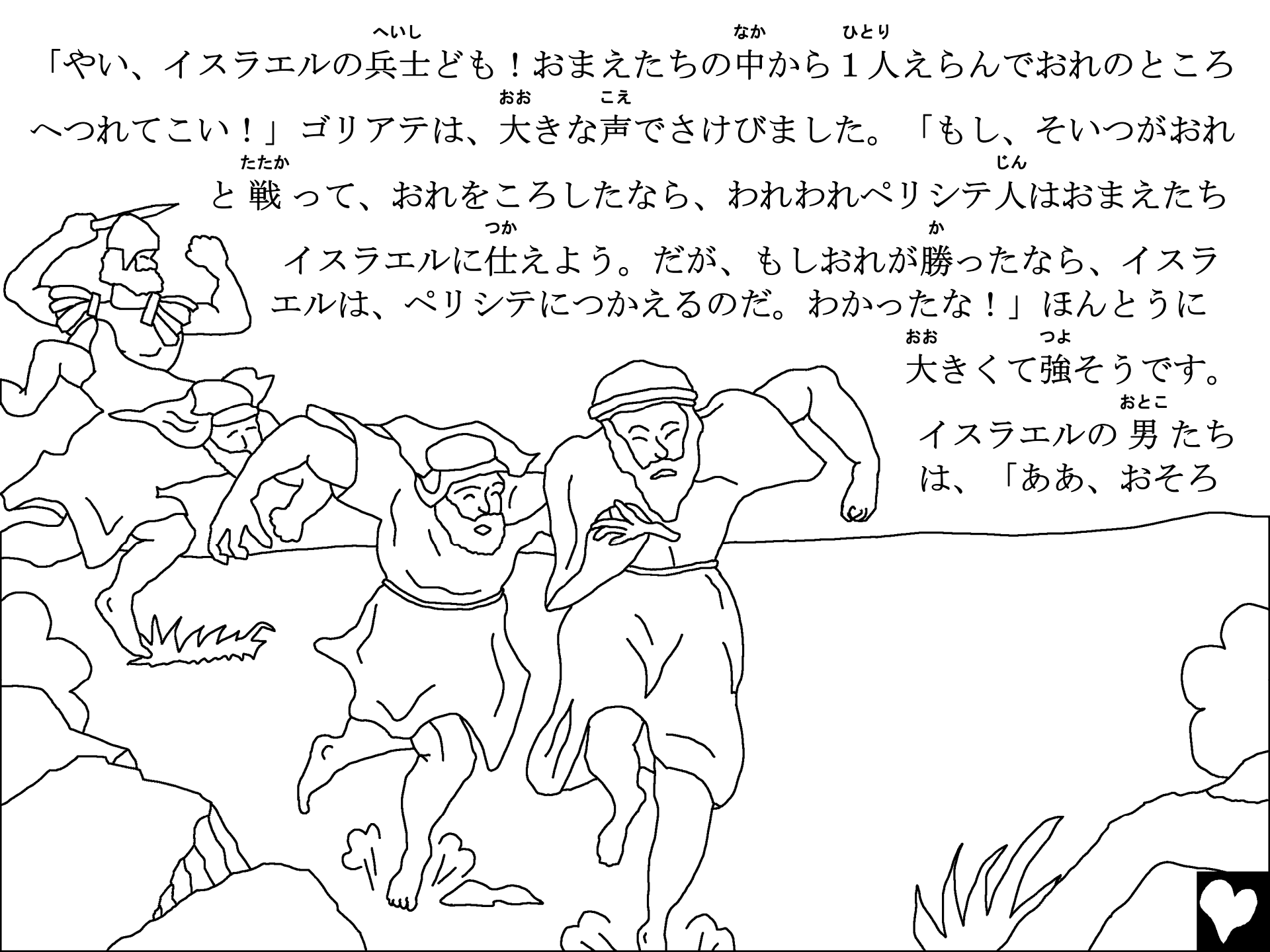


あれっ！ものすごくでかいペリシテ人がいますね。かれの名まえは、ゴリアテ。
イスラエルの兵士たちをとてもこわがらせていました。

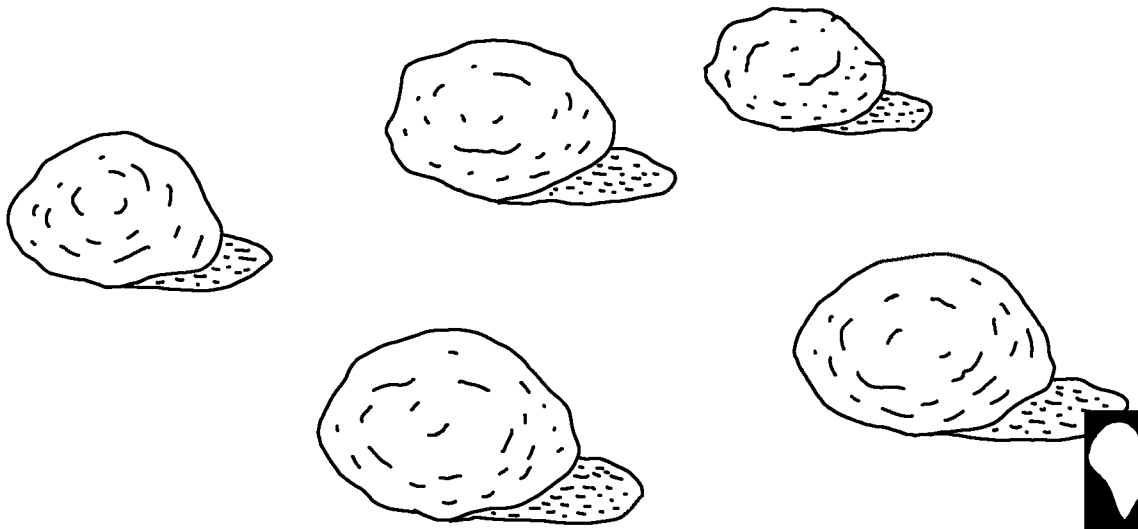


「やい、イスラエルの兵士ども！おまえたちの中から１人えらんでおれのところへつれてこい！」ゴリアテは、大きな声でさけびました。「もし、そいつがおれと戦って、おれをころしたなら、われわれペリシテ人はおまえたちイスラエルに仕えよう。だが、もしおれが勝ったなら、イスラエルは、ペリシテにつかえるのだ。わかったな！」ほんとうに大きくて強そうです。

イスラエルの男たちは、「ああ、おそろ



ゴリアテのことを知ったダビデは、サウルに言いました。「王さま、イスラエルは、ゴリアテなどこわがることはないのです。あなたの召しつかいであるわたしが、ゴリアテのところへ行って、やっつけてまいりましょう。」そこで、サウルは、自分が戦うときのよろいや、かぶと、そして刀をダビデにわたして、それらを使うように言いました。でもね、ダビデはゴリアテとたたかうのにサウルのかぶとや、よろいや刀を使わなかったのですよ。じゃ、何を使ったのでしょう。小川でひろったつるつるした５つの石と、石なげ器です。それらをもってゴリアテのところに行ったのです。



「ハッ、ハッ、ハッ、なんて小っぽけなやつだ。それに、よろいもかぶともつけてないじゃないか。」ゴリアテは大声でわらいました。そして「おまえのからだをバラバラにして、空をとんでいる鳥や、野原をウロウロしているけものたちのえさにしてやろう。さあ、かかってこい！」と言ってどなりちらしました。そこでダビデは、「わたしは、ただ主の名により、あなたのところにやってきたのです。」と答え、こう言いました。

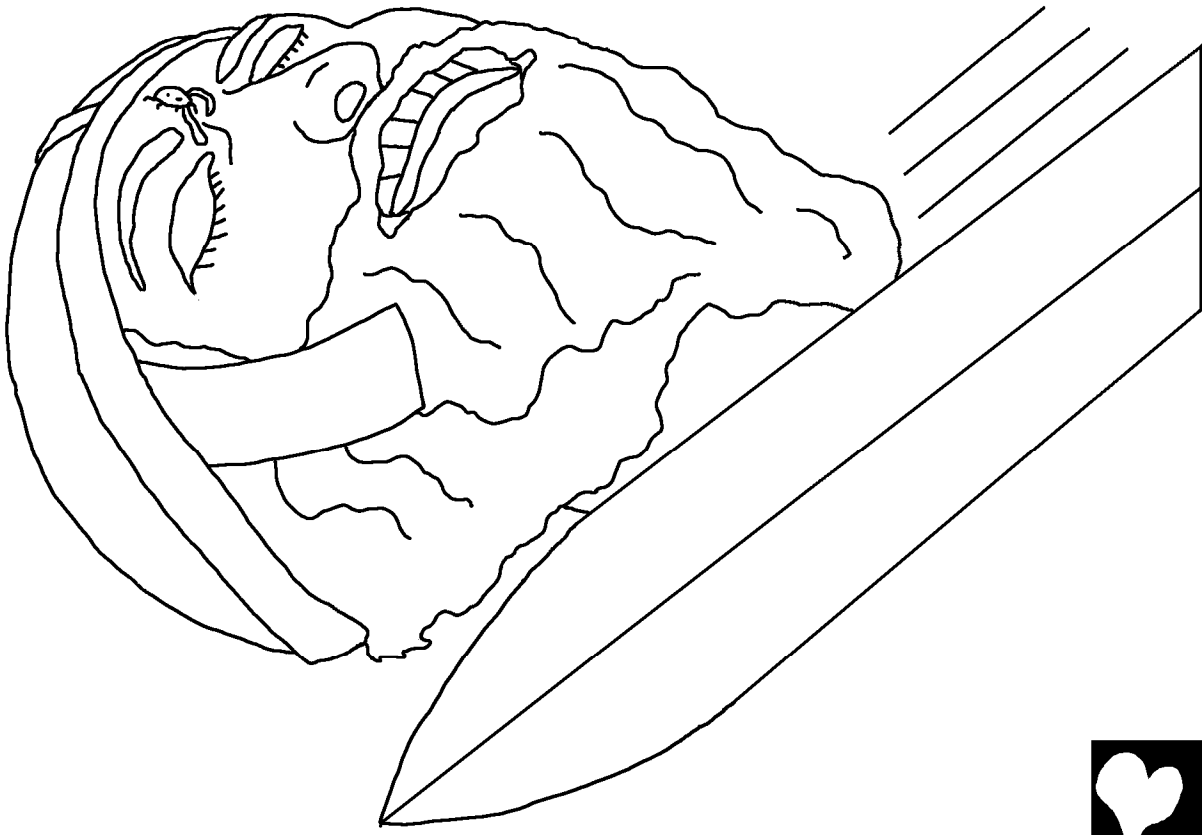
「今日、主はあなたをわたしに任せられ、勝たせてくださるでしょう・・・。このたたかいは、主のものなのです。」

さあ、ダビデはゴリアテにむかってまっすぐに進んでいきましたよ。ダビデは、走りながら、石なげ器から１つの石を、ゴリアテにむかって投げつけました。それは、ちょうどゴリアテのひたいにめい中したのです。

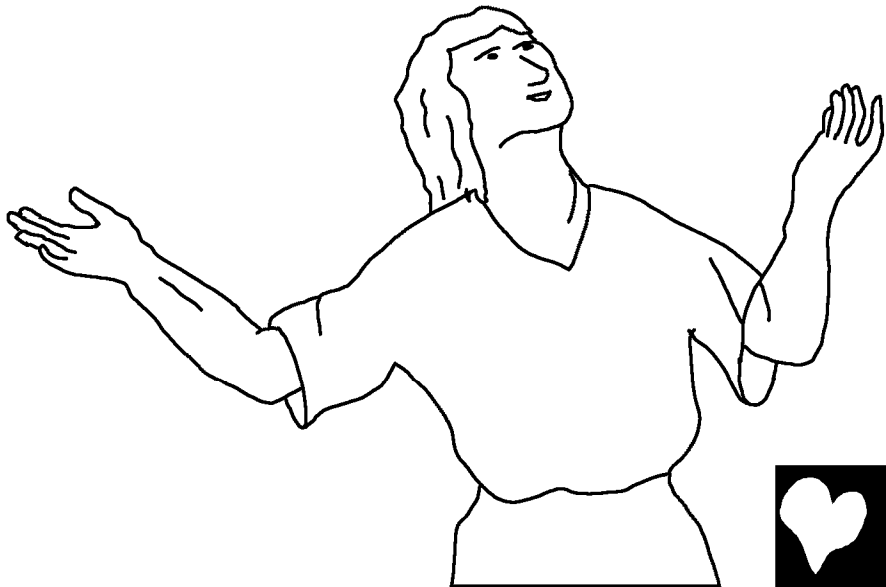
ドシン！ものすごい音です。

あっ、ゴリアテは地めんにひっくりかえっていますよ。

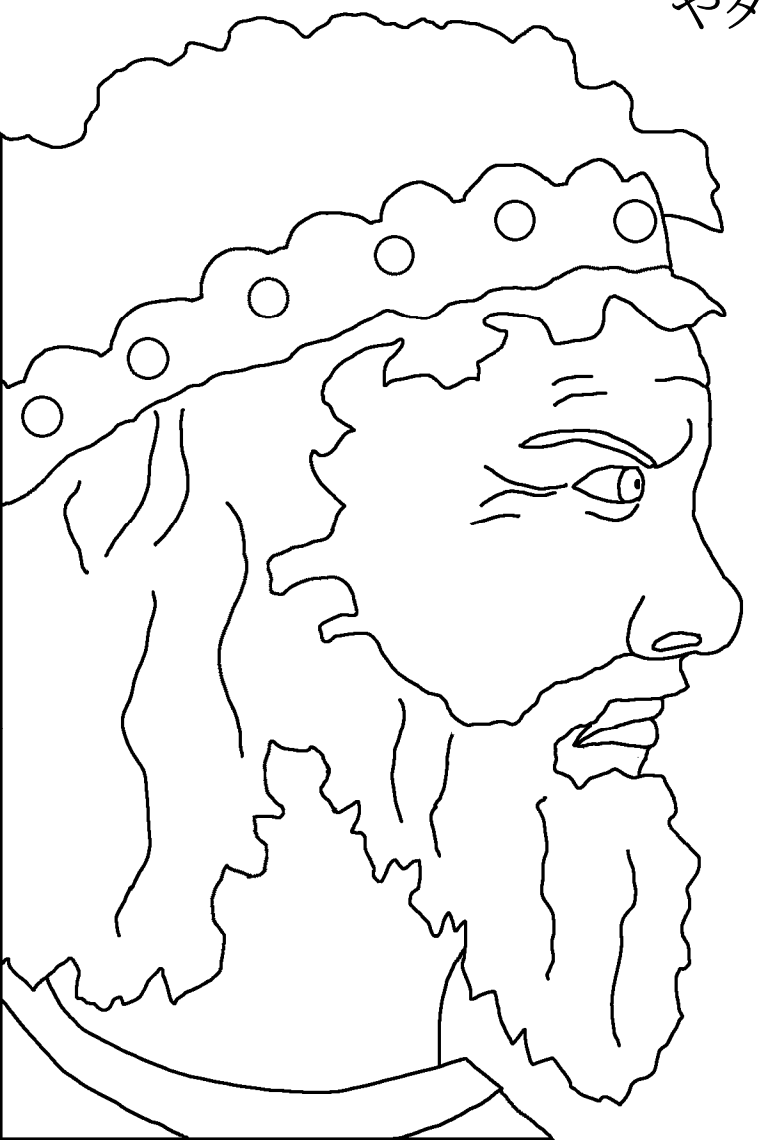
ダビデは、すぐにゴリアテの大きい大きい刀をとりあげ、かれのあたまを切りおとしました。大きなゴリアテが死んでしまったのを見たペリシテ人、みんなびっくりです。「わあ、たすけてくれー。」と言いながら、いちもくさんににげていきました。

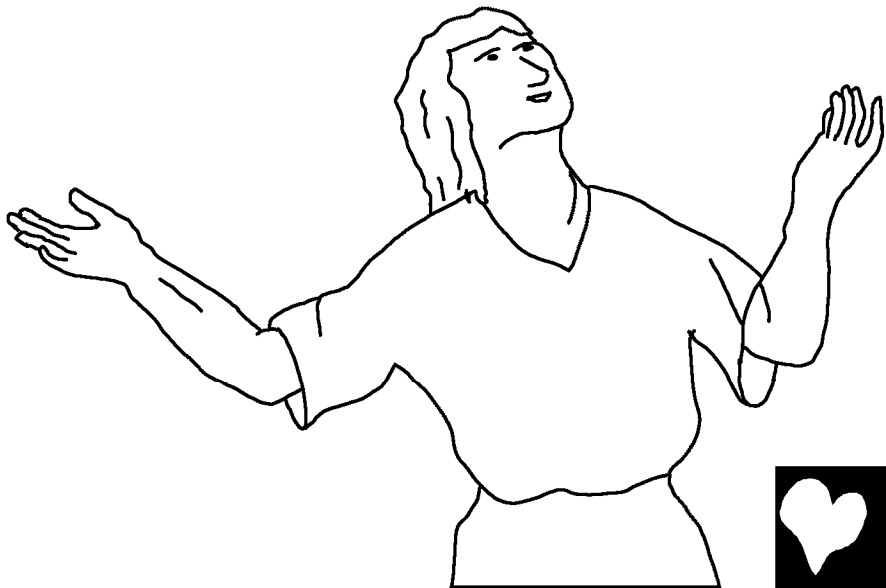


そのとき、サウル王は、ゴリアテをやっつけた人が、前にハープをひいて自分をなぐさめてくれたダビデとは、まったく気づきませんでした。あとでそのことがわかり、きっとおどろいたことでしょうね。それから、サウルはダビデを自分の軍たいの長として、はたらいてもらうことにしました。ところが、それからサウルとダビデの仲がだんだん悪くなっていくのです。



ダビデが戦いで勝つたびに、人々はダビデをほめたたえるようになったからです。サウルは、ダビデにしっとし、こう言ってにくしみはじめたのです。「いまやダビデは何でももっているじゃないか。わたしの王国のほかは何でも・・・」サウルは、ダビデを信じないで、いつもうたがいとにくしみの心をもって見つめるようなりました。

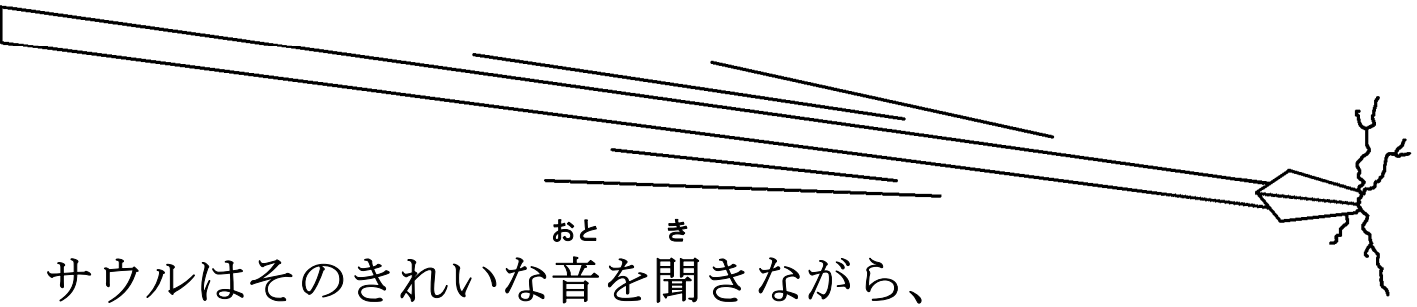




またしても、サウルの心にはやすらぎがなくなってしまいました。

そこでダビデは、サウルの心をなぐさめようと、

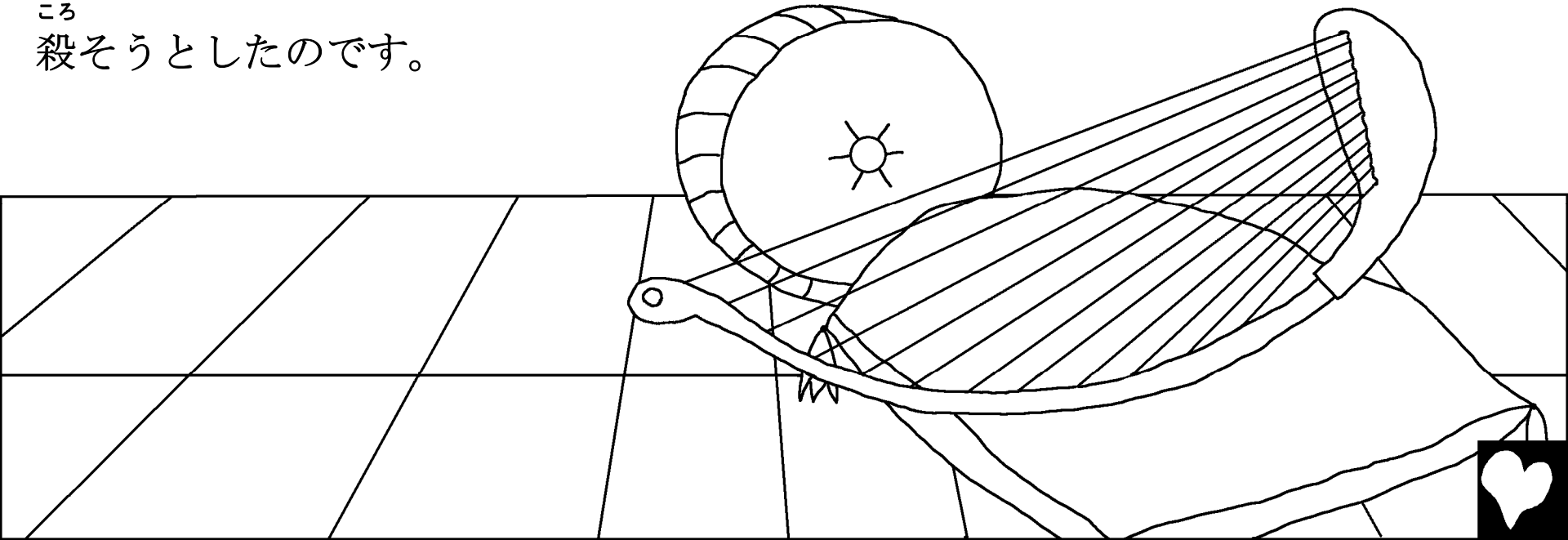
うつくしい音楽を聞かせましたよ。ところが、「あっ、あぶない！」



サウルはそのきれいな音を聞きながら、

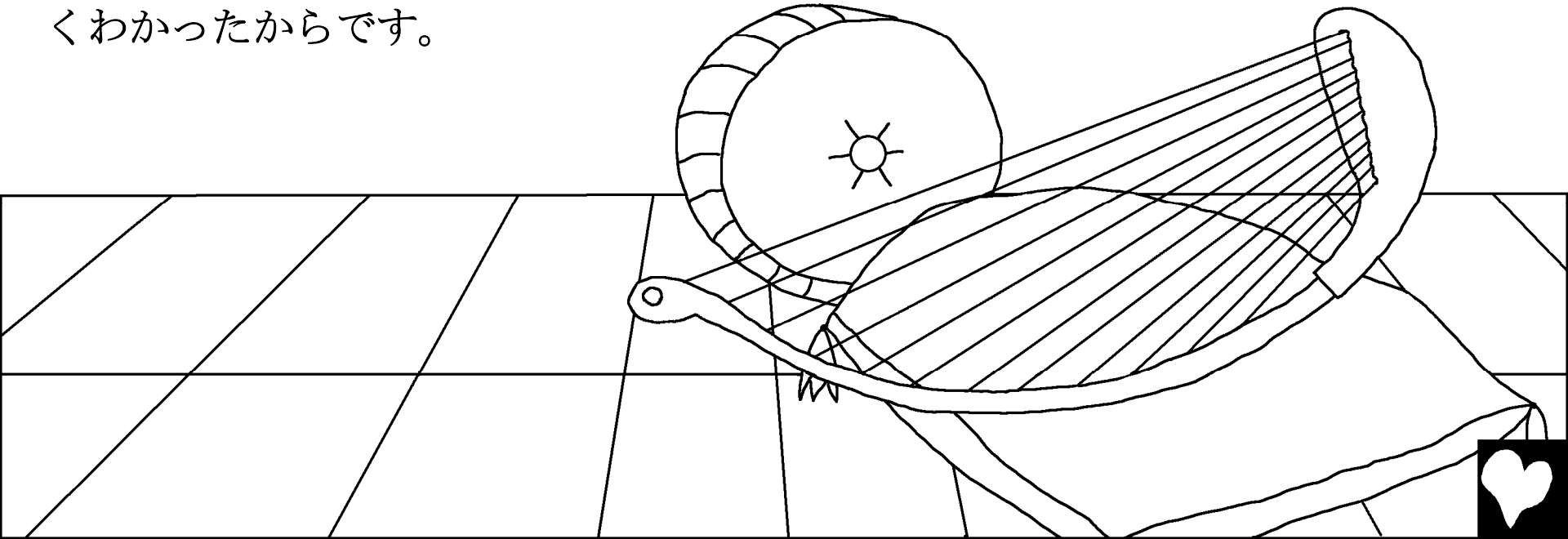
３回も自分のやりをダビデに投げつけ、

殺そうとしたのです。



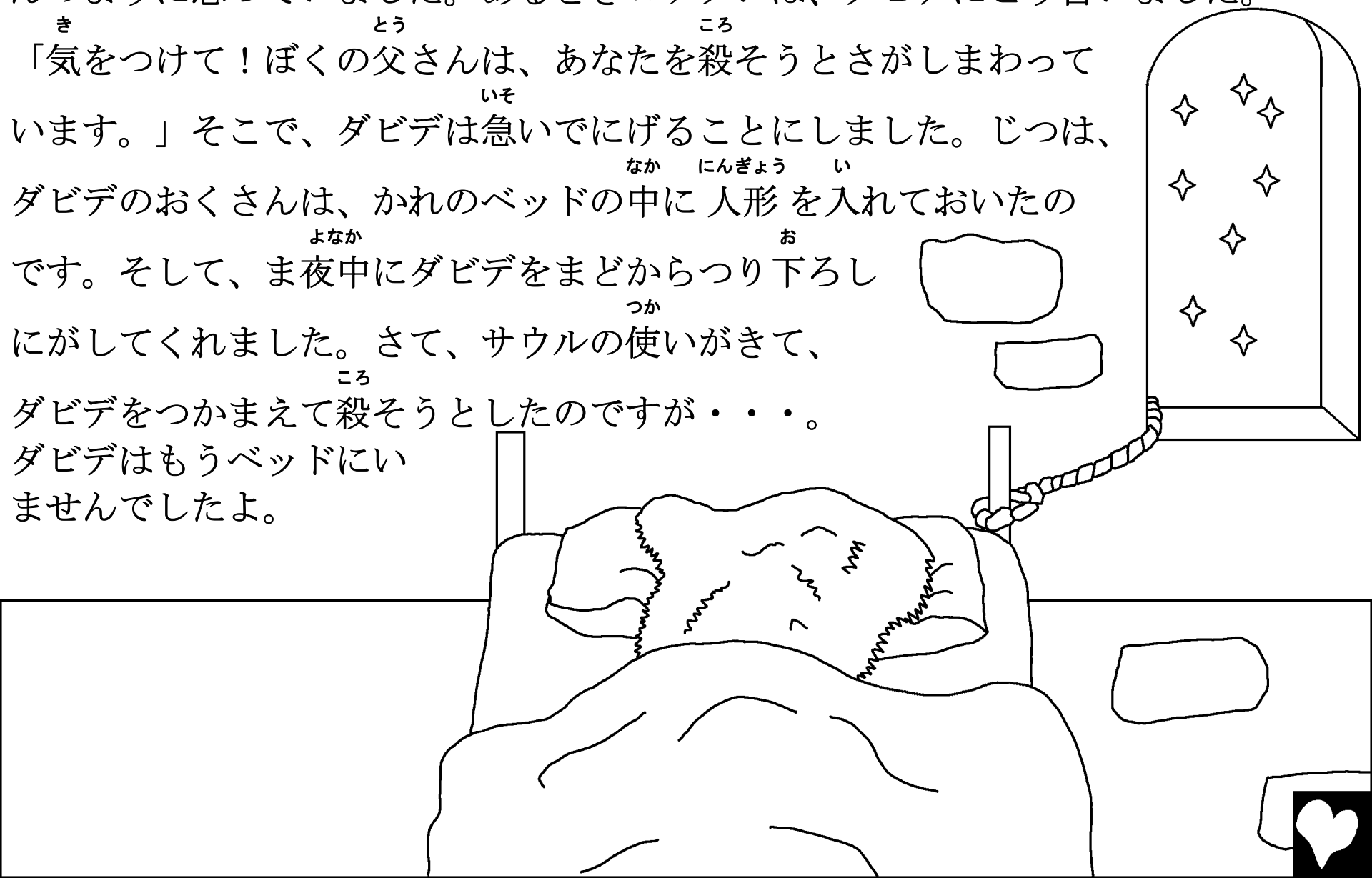
でも、そのたびにダビデは、そのやりからうまくにげることができました。
サウルは、ますますダビデがおそろしくなりましたよ。どうしてって、
主(しゅ)はサウルからは、はなれてしまったけれど、ダビデとは、

いつもいっしょにいて、
守(まも)っていられることがよ
くわかったからです。



ところが、サウルのむすこヨナタンは、ダビデが大好きでまるでほんとうの兄さんのように思っていました。あるときヨナタンは、ダビデにこう言いました。

「気をつけて！ぼくの父さんは、あなたを殺そうとさがしまわっています。」そこで、ダビデは急いでにげることにしました。じつは、ダビデのおくさんは、かれのベッドの中に人形を入れておいたのです。そして、ま夜中にダビデをまどからつり下ろしにがしてくれました。さて、サウルの使いがきて、ダビデをつかまえて殺そうとしたのですが・・・。
ダビデはもうベッドにいませんでしたよ。



ダビデはサウルからのがれて、とおいとおい所に行かなくてはなりませんでした。ダビデがにげる前、かれとヨナタンは、おたがいに何どもしっかりとやくそくしました。そのやくそくっていうのはね、「これからも２人は、いつも助け合っていこう！」というものでした。

かなしいことに、この２人はそれからすぐに「さようなら」を言わなければなりませんでした。ダビデは、これから生きていくところをさがしに出発したからです。もうサウルの兵士に見つからないところをさがしにね。

ひつじかいの少年、ダビデ

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

サムエル記上 16 章 -20 章

あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

詩篇 119:130

おわり

この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしってほしいと、
思っていらっしゃるのです。

神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しっていらっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

けれども、神さまは、あなたをとても愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみがえって、いま生きて
いらっしゃいます。どうか、私のこころの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書３：１６